

2021年度 佐久長聖高等学校 自己評価

学校教育目標	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して豊かな教養・感性・心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 一人ひとりが文武両道を実現できる環境を整える。 3. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。 4. 世界で活躍できる人材が育つ環境を整える。	1. 魅力ある授業が生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 2. 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 3. 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 4. 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 5. 学校の特色をアピールできるように積極的に情報発信を行う。

評価・・・A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導	大学入試改革に対応した具体的な取り組みができたか。	B	英語外部試験利用や4技能対応を意識した指導により、英検やGTECなどの合格者や高スコアを増加させることができた。／共通テストの分析や研究をし、考査に取り入れたり問題演習を行うなどの工夫をした。／総合探究の時間を通して問題解決能力・ディスカッション能力・プレゼンテーション能力を育成した。	本年度の共通テスト数学①が極端に難化したように、出題傾向が予測しにくい。／2025年の共通テストより「情報Ⅰ」が試験科目に加わる見通しだが、出題傾向が読めないため、対策が取れていない。／共通テストはこれまでのセンター試験以上に形式や時間配分に慣れるトレーニングが必要なので、年次に演習の時間を十分にとれる進捗を確保できる授業の工夫が必要。
		アクティブラーニング(AL)・ICT機器活用等の授業改善をしたか。	C	パワーポイント、ロイノートを使用し、生徒の集中度が上がった。／パワーポイントでスライドを作成することで定期考査に向けての振り返りに活用することができた。／生徒が慣れてきてパワポを使ったプレゼンテーションが上達した。／添削指導や小テスト、課題配信、提出物確認等でタブレットPCやネットワークシステムを最大限活用した。	コロナ禍のためじっくりと話し合わせる時間が取れない。／PC操作のスキルについて、生徒間で格差があり、一部の生徒が教師が要求するレベルの課題を提出できない。／ネットワーク環境が整わず全員スムーズに利用できない時がある。／ICTを使わないからこそ身につく力もあるので、使い分けが必要。
		中高一貫教育の特性を生かした指導や教育課程の見直しを行ったか。	C	中学校の教員から授業内容について引き継ぎをしっかりと行い、高校での学習が効率よくできるよう心掛けた。／オンライン英会話では、柔軟性を持ったプログラム(一貫課程用)を提供できた。／中高一貫コース現1年生は、中学で英検準1級レベルまで伸ばしており、その特色を生かして高校では英検1級レベルを扱うことができています。	教員の人事交流やお互いの授業見学などもっと活性化した方がよい。／中学と高校の互いの情報共有をする場をもっと増やした方がよい。／6年間を持ち上げてきた経験のある教員が少なくなっている。／一貫生の生徒間の学力差が大きいため、その対策を考えなければいけない。／高1の総合学習が、中3で行ったクエストとほぼ同じであったこと。
2	進路指導	計画的・戦略的に組織的な進路指導ができたか。	B	定期的な面談、大学の紹介や各イベントへの参加促しを適宜行った。／特に受験生に関しては1年間を見通した戦略・計画を作らせ、時期に応じたタイムリーな指示を的確に出すことができた。／入試のためと狭くせず、大学に入学してから、また、就職してから何をどうしたいのかを考えさせたのは良かった。	1・2年次の進路指導が、3年次の進路選択や学習意欲・学力向上にどう反映されたのか検証が必要。／長期休業中の過ごし方(特に受験生)について、職員全体で共有する機会を持つべき。／推薦合格者数が他校より少ないため、1年次から進路指導部中心に推薦入試対策を計画的に全職員でやっていく。／学年や担任によるカラーの違い、取り組みの違いがあった。
		保護者と連携した個に応じた進路指導ができたか。	B	面談や電話連絡、またMeetなどを使い、適切に指導できた。／三者懇談会を活用し、事前アンケートなどを実施し、保護者が求める情報の提供に努めた。／個々の要望に応じたプリント配布、放課後ゼミやセミナーの授業を行った。／毎日の生活の中での生徒とのコミュニケーションから必要な情報を電話やメール等で密に伝え、うまく連携が取れた。	保護者の方との相互的な連絡をできたらいいとは思っていますが、それに対応する時間があるかという点で厳しい。／コロナ禍の中、保護者が来校できない状況でも適切に対応していけるように研究が必要／生徒が保護者に的確なことを伝えているかの確認は必要。／生徒と保護者の希望が違う場合の対応が難しい。
		生徒の自己啓発につながるキャリア教育であったか。	C	探究活動・SDGs・インターンシップなどにより以前に比べて活発な取り組みができるようになってきた。／推薦入試指導をできるだけ丁寧に行って、生徒が自分の将来を深く考える機会をつくるように努めた。／自己啓発系の通信を出して読ませて話をしている。／機を見て進路選択についてや学習について、人としての生き方について話をしていた。	コロナ禍の中で、対外的な活動に参加させるか工夫が必要。／自己を振り返る時間を取り切れず、活動が半端になってしまう事があった。／諸企画の主旨をきちんと吟味せず、とりあえずやったという感じのものもある。中心に運営する部署が曖昧。／教員も外に目を向けるように心がけたい。／
3	生徒指導	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	B	「いじめは起こるもの」というスタンスを忘れず、指導に取り組んでいる。／人間関係のトラブルや、集団への不適応を訴える生徒はいたが、迅速に対応することと、心情を丁寧に聞き取ることに注力し、概ね解決している。／生徒の小さな変化から何気ない会話や面談等に持つていくことができ、未然に小さな芽のうちに気にかけていくことができるようになった。	人のものを黙ってかりるなど、いじめにつながるようなルール違反はまだある。／自分の気付いていないところで苦しんでいる生徒がいるかもしれないので、SNSなども含めて情報を細かく取り入れていきたい。／生徒が相談できる環境や雰囲気やさらに作る必要がある。／SNS上の誹謗中傷は発見しにくいので教員の研修が必要。
		体罰や暴言のない安心な学校づくりができたか。	B	叱る・怒る・指導と難しい線引きの中でたまに厳しい言葉をかけることはあるが、フォローを十分できていると思う。／肯定的な言葉を書けるように心がけた。／生徒の成長や良さを見落とさず、承認するよう心がける。これによって穏やかな雰囲気や醸成される。／新型コロナウイルスに関係する生徒が出てきている中でその生徒が風評被害を受けないようにも注意している。	生徒たちの能力を叱って伸ばすのではなくほめて伸ばせるように一層努力していきたい。／何が生徒の心に響くか、何が傷つくかの研究を深めたい。／強い言葉が「暴言」ではなく「激励」と受けとってもらえるような信頼関係を築いておくことが大切。／生徒の成長には負荷をかけることも教育上必要だと思うが、日常的な教室では、それがたいへんやりにくくなってきている。
		校内外での安全・トラブル(SNS含む)に注意できているか。	B	わからないところで進む可能性があるため怖さを話しながら注意喚起している。／生徒からのちょっとした情報でも大事に考えて、教員間で情報共有をした。／学年でSNSに関する探究活動を計画し、実施した。／生徒からの相談があったが、迅速に対応して問題が小さくうちに解決できた。／郊外で起きた事例を教材化して注意を促した。	SNSに起因するトラブルを防止策として講演以外に何かがあるのか考えねばならない。／スマホの校内利用の線引きが自分の中でも曖昧になってしまいがちな部分がある。／早期発見や気づけないとき、その後の対応次第でことが大きくなる。／探究の振り返りアンケートで、SNSの探究があまり楽しくなかったと評価されたので、内容を精査しなければならぬ。
4	保護者連携 地域連携	ホームページ・Classiなどで積極的に学校情報の発信ができたか。	B	Classiで担任による学級通信はもちろん、学年内で持ち回りで学年通信により生徒の様子や学校の情報を定期的に発信できた。／Classiの通信では動画や画像も送れるため、保護者からは好評いただいている。／SNSを通じて部活動の様子を発信した。／昨年よりもホームページで学校NEWSを多く発信できた。	SNSでの発信の際、どこまで情報を発信していいものなのか十分に注意することが必要と考える。／担任間による発信頻度の差がある点が問題。／必ずしも全員がこちらのお知らせ等を読んでいるわけではないのでそこが課題。／画像データが重くなってしまったので次から解像度を落として配信したい。／
		保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	休み明けの所見をはじめ連絡があった際にはすぐに返答できた。／ホームページなどで発信している情報に関して問い合わせがそれなりにあり、真摯に対応した。／保護者の心情を想像し、迅速で丁寧な対応を心がけた。概ねすべての保護者の理解を得ている。／三者懇談後に担任に授業内容について保護者や生徒から要望があったか必ず確かめて、必要なものは対応した。	家族の問題にどこまで踏み込んで良いか迷うことがある。／保護者は、子供を通じてのとらえ(時に本人の都合の良いことのみ)になるので、すれ違いになり、誤解を招くこともあるように感じた。／教室の温度管理については実際に使用している人の現状に合わせて継続的に臨機応変に対応していく必要がある。
		説明会・オープンスクール(OS)・学校訪問など積極的な広報活動ができたか。	B	コロナの影響下ではよくできた方だと思う。／体験入部の際には、少しでも緊張を和らげ、楽しんでもらおうと、部員と共に活動できた。／来校者がいるときに、最大限の配慮ができた。／体験授業では保護者を巻き込んだ授業展開ができ好評だった。／説明会では、在校生のお話で、生徒はスライドを使うなど、工夫して話をしてくれていた。	コロナ禍のため全体で集まらずにMeet配信をした場面があったが、不具合が生じた。／コロナ禍だからこそ中学校訪問の回数を今まで以上に増やしていくべき。／学校のオリジナルグッズ(文具やマグネットなど)をもっといろいろ用意してもよいのでは。／長野県内の中学校に、積極的に出前授業をしたらどうか。